

町民の方から投稿をいただきましたので、紹介します。

ウォーキングコースとオールドマン達の寄り合い所

おおかわ ようぞう
大川 洋三さん

朝5時半、朝刊の見出しだけに通し外を見ると、すがすがしい気持ちの良い朝のようだ。さつそく、運動靴を履きゆつくり歩きます。暇な老人の一日の始まりである。コースは、新しく整備された重茂線である。途中「オランダ坂」を右に下る。4年度中に完成が見込まれる防潮堤工事も、急ピッチで進んでいる。完成が待ち遠しい。やがて小高い所に差し掛かるとそこから山田湾が一望できる場所がある。歩き出して20分くらいのところだろうか。ちょうどその時間帯、湾口の山あいから朝日が昇る頃だ。間もなくして養殖施設のフロートが鮮やかな色に輝いて見える。朝露にぬれたようなときは、なおさらである。ここを通るたびに脳裏に浮かんでくるのが、あの震災後の光景である。これからどうなるかと思う日が長く続いた。あれから10年が過ぎ、今はどうだろうか。整然と並ぶ養殖施設。震災前は、四千台強あった施設も今は半数にも満たない。町の人口の減少に伴い漁業者の減少が大きな要因ではあ

る。湾内には施設が多すぎると、大きな問題になった時期があった。その時のことを考えると区画された漁場と台数を見る限り、適切かなと思っっている。例年9月頃になると、生産を高めるための仕事が残っている。この日も、日中の日照りを避け、早朝からカキの成長を妨げる付着物を温湯により除去する作業船十数隻が作業に当たっている。良いものを作り育てるための大変な作業である。間違いないその効果は出るだろう。そう願う、いつものコースをゆつくり歩きます。間もなく癒しの「オランダ」が目に入る。ちょうどこのところが、歩くコースの中間点である。この場所こそが現役を退いたオールドマン達の寄り合い場所である。そこで、ある日集まった元気な御老人たちの生活の一部を紹介してみよう。ここに集まる暇な御老人は、みな後期高齢者真つ只中である。マスクのためか、耳が遠くなったのか分からないが、みな声が高い。端から聞いたら言い争いに聞こえるだろう。決してそんなことはな

い。ここに集まる御老人達、そつちこつちから集めた情報を話題に「そうだあ、そうだねえ」とうなずいたり笑ったり、時には強情を張ったり。心の通い合う居心地の良い、寄り添い場所である。遠方からの友人も度々顔を見せる。その時ばかりは話題も豊富になり、談笑も最高潮になる。ここのご主人、本当に温厚な方である。腰は低くいつもニコニコして、私どもを快く迎えてくれる、心優しい方である。この日の寄り合いは、いつもとちよつと違う。総裁選のこと。「誰だべ」と、真剣な雰囲気になったりした。この年代になると足腰は弱まり、世はまさにスマホ時代。新聞、テレビで目にする横文字には置いて行かれ、衰えを感じさせないのは達者なお口だけである。私ども暇な老人達日々の生活を謳歌できる寄り合いどころ、この場所こそが癒しの宿「オランダ」である。オールドマン達、今度はどんな情報を拾い集めてくるか楽しみである。

あなたの写真で議会だよりの表紙を飾りませんか？

表紙の写真を募集しています。第175号掲載分は3月18日(金)を締め切りとします。その後も随時募集します。詳しくは町議会のホームページをご覧ください。

あ
と
が
き

▼コロナ禍によるマスク・消毒が日常となり、自粛に明け暮れた一年でありました。2回目のワクチン接種にて方向性が見えてきた矢先、さらなる変異株の脅威に緊張感が高まっていますが、3回目のブースター接種への体制も着々と進んでいます。▼昨年は山田高校生徒の高校生議会に始まり、山田中学校生徒と総務教育常任委員との意見交換会、12月定例会には山田高校生徒の議会傍聴等これからの町を担う若い方々に希望と感動そして責任感を頂きました。未来へ向けて、ますますの活躍を期待しています。新たな年も多くの町民の方々に傍聴に来ていただけるよう、より開かれた・より期待される議会を目指していかなければと思いを新たにした定例会でありました。(豊間根信)

◆発行責任者

議長 昆 暉 雄

◆議会広報編集特別委員会

委員長 菊 地 光 明
副委員長 阿 横 豊 間 昆
委員 田 部 吉 清
阿 横 豊 間 昆
部 田 部 吉 清
幸 龍 吉 清
一 寿 信 衛

やまだ議会だより No.174 令和4年2月1日発行 発行/岩手県山田町議会 編集/議会広報編集特別委員会 電話/0193-82-3111(内線511) FAX/0193-82-4989 ホームページアドレス https://www.town.yamada.iwate.jp/chousei/gikai/